

No.51 平成30年10月1日 磐田市立図書館 電話 32-5254 (中央)
ホームページアドレス <http://www.lib-iwata-shizuoka.jp/>

みの

あき

～実りの秋～



あき たいせつ そだ 秋は大切に育てられたお米やくだものの、しゅうかくのきせつです。
こうえん はやし いろいろなおお 公園や林で、いろいろな大きさのどんぐりを集めるのも楽しいですね。
き み さくもつ 木の实や作物がゆたかに実る、秋の本をしょうかいします。

いね にほんじん 『稲と日本人』

甲斐 信枝／さく, 佐藤 洋一郎／監修 (福音館書店)



にほんじん しょくせいかつ 日本人の食生活をささえる米づくりは、いつ、どのように始まったのでしょうか？稲はわたしたち日本人にとって、文化やけいざいともかわりのあるとくべつな作物です。わたしたちのせんが、大切に育ててきた稲がげん代まで伝わり、毎日おいしいお米を食べることができます。

おおくのさいがいとたたかいながら、日本の土地や気こうに合った稲づくりのために、どりよくとくふうをかさねてきた人びとの様子がわかります。



『木の実ともだち みつける・たべる・つくる』

松岡 達英／構成
下田 智美／絵と文
(偕成社)

『きんいろのとき ゆたかな秋のものがたり』

アルビン・トレッセルト／文
ロジャー・デュボアザン／絵
えくに かおり／訳
(ほるぷ出版)

あき もり 秋の森には、たからものがいっぱい！木の実をみつけたら、何の実か調べてみよう。木の実を使ったりよう理もしょうかいします。

なつ お 夏が終わりをむかえると、ちいさな生きものや夜空の星など、身近な自ぜんが秋のおとずれを教えてくださいます。



みの

あき

実りの秋



『りすとかしのみ』

坪田 譲治／文
伊勢 正義／絵
(岩波書店)

山の上にかしの実がたくさんなっていました。秋の風でかしの実は落ちて、川に流されたり、食べられたりしました。そしてさい後の実を、りすが食べようとしました。すると、かしの実は、来年大きな木になって実をたくさんあげるから、それまで待ってほしいとたのみました。



『おばけリンゴ』

ヤーノシュ／さく
やがわ・すみこ／やく
(福音館書店)

ワルターさんは、リンゴの木をいっぱい持っています。とてもいい木なのに、花はさかないし、実もなりません。ワルターさんは「ひとつでいいから、うちの木にもリンゴがなりますように。ひとつでいいからほしいのです」と心をこめていのります。このねがいは、かなえられるのでしょうか。



『ドンダリ (コナラ) の絵本』

大久保 達弘／編
アヤ井 アキコ／絵
(農山漁村文化協会)

ドンダリは知っているかな。でも、ドンダリという名前の木はありません。コナラやくヌギなど、ドンダリをつける木はいくつかあり、それらを「ドンダリの木」とよんでいます。ドンダリの木について調べてみましょう。



『季節をたべる
秋の保存食・行事食』
濱田 美里／著
藤田 美菜子／絵
(アリス館)



『干し柿』
西村 豊／写真・文
(あかね書房)



『リベックじいさんのなしの木』

テオドール・フォンターネ／文
ナニー・ホグロギアン／絵

藤本 朝巳／訳
(岩波書店)

